

コヴェントリーII サイクル劇 (XVII)

橋 本 侃

第二十五番演目 らざろノ復活

写本左百二十七頁

(1)

ラザロ 神よ、あなたは無からすべてのものを創られました。

ご意向に合わせ、一つ一つの物を創られました――

手作りにされた人間を除いて。

それはあなたが質の高い実体を持たれる主だからです。

おお、慈しみ深い神よ、お心のままに、

いまこの時、この身を病から楽にしてください！

この病をとおして悔い改めができることが、

頭が痛くなるほど考えて、やっといま分かりました。

(2)

お姉さんのマルタとマゲダラのマリア、

急いで手を貸して、ほくをベッドに寝かせてください——

ひどく気分が悪いのです。

この大病からは、もう逃れられないかもしれない。

きつと死はもうそこまで来ている。

手を貸して寝室に連れて行ってください。

この大病の勢いが衰えてくれるといいのですが、

ベッドに横になったら。

(3)

マルタ 弟のラザロ、元気を出してください。

病の勢いが衰えてくれるといいわね。

さあ、このベッドの上に横になって——

つとめてぐっすり眠るようにしなさい。

マリア さあ、優しい弟、お願いだから

気分を高揚させなさい、気弱にならないで。

うちの中の家族みんなの気分は重くなってしまう、

お前が死病に取りつかれてしまったら。

(4)

ラザロ 愛しいお姉さんたち、実際に眠れなんです――

病はどんどん悪くなるばかりです。

お願いですから、ほくの世話をよく見てください、

この痛みから開放される時まで。

マルタ 神よ、お恵みを、痛みがとまりますように！

百二十八頁

お前を治してくださいますように！

30

さもないと、わたしたちの喜びは目減りしてしまう、

お前が横たわったなり、ひどい痛みに縛りつけられたままになるなら。

(5)

マリア ああ、弟よ、弟よ、気分を高揚させなさい――

そんな暗い顔つきを見ていると胸苦しくなる。

死がお前をわたしたちのもとから引き裂いてしまうのなら、

35

その時こそ、わたしたちは苦しみに引きずり込まれてしまうのです。

お前は血縁の弟なのです。

もしも、お前が死んでもしたら、わたしたちに男のきょうだいは誰もいなくなる。

わたしたちの気分は落ち込んでしまう——

「この世からいなくなる」などと、お前が告げたら。

(6)

見舞い客一 マルタさんに、マリアさん、

お弟さんがどんな具合か、わたしたちにも見せてください。

マルタ 加減が悪く、ひどく痛がっています。

このまま死んでしまうのではないかと心配です。

マリア きつと誰でも哀れと思ってくれるでしょう——

あの子の焼けるような熱に触ったら。

見舞い客二 そんなことを、ほんの少しでも考えたらいけません。

すつかり元気になってくださいよ！

(7)

マルタ あの子の顔色がすつかり変わってしまったことを誰が信じられますか？

さあ、あなた、ベッドへ行つて、見てやってください。

マリア これで命が永らえたら不思議でしょうね。

でも、神がそのようにお望みだから、きつと永らえるはずです。

お友だちの皆さん、どうぞお願いです、元気づけてやってください——

わたしたちには慰めてやれないのです。

ああ、悲しい！ 苦しいのは、悲しみのせいで、この心臓が驚くほど大きくなっているからです。

(8)

見舞い客三　こんにちは、ラザロさん、ご機嫌いかがですか、

ご気分はどんなふうですか。

ラザロ　病を気遣うせいで気持ちが激しくゆすぶられています――

この世から、このわたしを死がいつ出立させるのかを見守るだけです。

見舞い客四　すっかり良くなって丈夫になるはずです、

もし高揚した気分が習い性となれば。

ラザロ　死がわたしに槍を投げつける時には、

すっかり治ったことは治ったが、お棺の上に横たわっていることでしょう。

(9)

見舞い客一　気持ちを楽にして、そんなことを考えないことです。

そんなつまらない考えなど追い出してしまふことです――

そんな考え違いをしていると、自分を苦しめ、

それだけ早く死がやって来る原因になりかねません。

左百二十八(55)

見舞い客二 大病にかかっている、

自分自身をしつかり信じることです――

信じられないのなら、当然だと思えますよ、

死んだら、土くれに投げ捨てられるだけだと。

(10)

見舞い客三 いままでにも、大病を抱えていたが、

後になって健康を取り戻す人は多いし、

それに劣らないほどの数において、

治るはずの自分が信じられなくて、自殺してしまう人も多かった。

あなたはまともな頭の持ち主だから、

病に苦しめられているから気分は悪いでしょうが、

全力を挙げ、氣力をふりしほり、

意思を尽くして、自分を励ましてください。

(11)

ラザロ この病にあらがうのは安易なことではありません。

わたしの親愛なる先生であるイエス・キリストは

わたしが病気であることを知ったら、

必ずここへ直ぐにやってこられるはずです。

見舞い客四 では、わたしが使者となってイエス様のところにゆき、

あなたがお病気であることを必ず伝えましょう。

いいですか、元気をだしててくださいよ、

わたしが行って、帰ってくるまでは。

(12)

マルタ では、優しいお友だち、このようにお伝えください――

「あなたに愛されている者が大病にかかりました、

ここにいらして、わたしたちを慰めてください。」

申し上げてください、「優しい心配りをしてくださるように、と祈りました」と。

マリア わたしたちはこの身を気高く尊いあの方の身に託させていただきますので、

わたしたちの心の苦しみのすべてをお伝えください。

あの方がわたしたちの重い心を慰めてくれないのなら、

この世の喜びはきつと消えてなくなってしまうでしょう。

(13)

見舞い客四 すべての事情を、こまごまとしたところまで、

おっしゃったままにお伝えしましょう。

さあ、あなた方はお弟さんの所へお戻りください、お大事に。  
これから真つ直ぐに行きます。「退場。」

マルタ 「弟へ」どんな具合か聞かせてご覧。

なにが食べたいの、なにが飲みたいの？

さあ、いいこと、好きなものを言つてご覧、

これだと考えているものを出してあげるから。

(14)

ラザロ ぼくの氣息はとまり、息の根がとまった――

ぼくの命を終わりにしようと思つて死がやってきました。

この魂を天の神にゆだねます。

さようなら、お姉さんたち――ぼくはこの世からいなくなります。

「ココデ、らざろハ死ヌ。」

マリヤ ああ、悲しい！ 苦しくて髪をかきむしるだけ！

いままで生きていた愛しい弟は死んでここに横たわっている。

たつたいま、わたしたちは信用できる友を失ってしまった――

親族のうちでもっとも血の近い者だった！

(15)

マルタ ああ、ああ、悲しい！

いまはもう、わたしたち二人に男のきょうだいがいなくなつた。弟を亡くした悲しみで、わたしの心臓は土くれのように冷たい。

ああ、誰がわたしたちの悲しみを慰めてくれるのだろうか！

わたしたち以上に悲しみにくれる女はいままでになかつた！

ああ、妹のマグダラのマリア、聞かせて、なにをしたらいいかを、

この重い気持ちを軽くするにはどんな助けがあるのかしら――

弟が死んで、逝ってしまったいまとなって？

(16)

マリア ああ、愛しいお姉さん、わたしの口からは出てこない、

わたしにどんな慰めができるのか、どうしても口に浮かんでこない。

いつそ誰かに殺してもらつて、

弟のそばに一緒に倒れて、死にましようよ。

ああ、悲しい！ 弟はなぜ一人きりで逝ってしまったの？

一緒に死んでいたら、

わたしたちの悲しみのすべては喜びに変わっていただけよう――

すべての喜びは、いまや、悲しみに変わってしまった。

(17)

見舞い客一 気持ちを楽にして、すべてのことを神に感謝しましょう――

死は人間の一人残らずに必ず来るものです。

死がわれわれに襲いかかるのが

一体いつのことか、地上の者には当てることはできません。

マルタ わたしたちが死ぬのは確かなことです。

そうであっても、親切気があふれる体液である血液を多く持つ人は

死が弟を連れ去ったので、

その埋葬を嘆き悲しむに違いありません。

(18)

見舞い客二 友だちの皆さん、お願いです、静かにしてください！

いくら泣いたって、元に戻すことはできません。

だから、そのように嘆くのはもうやめにして、

ラザロさんを土の穴へ埋めるのに手を貸してください。

マリア ああ、悲しい！ この心臓はとまってしまおう、

「ラザロを土に葬らなくてはならない」などという言葉を聞くと！

誰かがわたしの喉を切ってくれたらいいのに――

そうしてくれたら、洞穴と一緒に横たわることができるのに！

(19)

見舞い客三 弟さんは頭と足がぐるぐる巻きにされています、

美しい、きれいな布で。

皆で地の底まで真っ直ぐ運んで行きましょう、

お墓にしようとおなたたちが思っている所まで。

マルタ そんな穴を見るなんて、大嫌い！

でも、状況がこれ以上は良くならないのだから、

あなたたち三人で死体を持ってください、

妹と足元に気を配りながら、後ろからついてゆきます。

〔ココデ、亡骸ハ墓所へ運バレル。〕

(20)

マリア ああ、悲しい！ 他の慰みが見えてこない――

あるのは悲しみと気がかりと嘆きばかりだ。

悲しみに沈んだ二人の女が、その弟を埋葬しなくてはならない。

ああ、悲しい！ 死にはわたしを殺すつもりなどない、

たとえ、弟と一緒に穴に入っても。

これまで以上に、その穴の中で一緒にいたいのに——  
その時には悲しみのすべてがわたしからなくなってしまおうでしょう。  
しかし、いまは、大きな悲しみがわたしの傷口を大きく広げています。

(21)

見舞い客一 この死かばねをこの穴に埋めよう——

魂のほうは全能の神が取られるから。

それから、この墓をこの石で閉じよう、

飢えた毛だ物から、かばねを守るためだ。

マリア ああ、とうとう、洞穴に運び入れられてしまった。

左百三十 (165)

こんな光景を見ると、ああ、この心臓は苦しきにとまってしまおう！

皆さん、この墓の脇に腰を下ろし、

ここを立ち去るまで、思う存分泣きましょう。

(22)

マルタ 誰がわたしたちが泣くのをやめさせられましょう、

このような光景を目の前には。

ああ、悲しい！ どうしてわたしたちを死は連れて行かないのでしょうか——

こうして、わたしたちを死んだと同じ目にあわせているというのに！

見舞い客二 恥ずかしいから、もう立ちましよう――

したらいけないことをしています。

この墓から直ぐに立ち去るのです！

これは神の力に敵意を抱くことです、

高き神にたいして罪を犯しています！

(23)

マリア 皆さんとご一緒に帰りたいたので、

まずその前に、弟の墓に接吻させてください。

ああ、悲しい！ この苦しみからわたしを救ってくれそうな人は誰もいない。

さようなら、わたしの弟、さようなら――わたしの喜びだった！

見舞い客三 家までお送りしましょう。

どうぞ元気を出してください！

お二人がなされていることを見ますと、ひどい間違いを犯していますよ――

場違いのように、ひどくお泣きになっている！

(24)

マルタ それでは、家に帰りましょう、うちまで戻りましょう。

どうぞご一緒してください。

ほんの少しでいいのですから、わたしたちを慰めてください、わたしたちの悲しみが消えてなくなるまで。

**見舞い客一** あなたがたをいつでもお慰めできるように、

この家に昼も夜も留まりましょう。

そして、広いこの世をお創りになられた神が

一番の慰めとなりますように願いましゅう！

〔ココデ、使者トナツタ見舞い客四がいえずノ意向ヲ聞ク。〕

(25)

**見舞い客四** イエスと呼ばれる、聖なる預言者よ！

マルタとマグダラのマリアの二人のきょうだいが

あなたのご高名に望みを託して、

このようにあなたにお伝えするようと、わたしに命じました――

「あなたが愛しておられたラザロが、

ひどい大病にかかりました。

ラザロの所へ来ていただきたい」と言うように頼まれました、

「もしもあなた様が望まれるのならば」と。

(26)

イエス ラザロは死病に取りつかれたのではない。

これは神の偉大な栄光を証明するためのもの――

その病気は神によって決められたもので、

神の御子の栄光を称えるためのものだ。

使者（見舞い客四） お二人はすぐに死なれてしまうのではないかと心配されています。

痛ましいことに、大病がラザロを捕えました。

燃え上がる体熱で血は干上がり、

お二人が話している間にも、あの人の顔色は変わりました。

(27)

イエス もう一度、取って返して、このように二人に言いなさい、

「行かれる時にそちらに行く」と。

使者 おお、預言者のイエス様、お命じに従い、

おっしゃるとおりにお伝えします。

イエス 行きましょう、兄弟たち、歩いてゆきましょう、

直ぐに、ユダヤ人たちのところへ行きましょう――

二人はたつぷり一日かけても行けない所にいる。

だから、少し時刻は早いですが、これから直ぐに出かけよう。

(28)

使徒一同　　またもやユダヤ人たちは荒れ狂っております。

そんな所にいらっしゃったりしたら、殺されてしまうでしょう――

石でもつてあなたを殺そうと探していたくらいですから。

それにもかかわらず、あなたはまたもや、そこへ行かれるおつもりだ。

左百三十一

220

イエス　　さあ、いま確かに十二時になった――

これで晴れ晴れとユダイヤ人の中を歩ける。

岡でも平野でも、どこを歩いても、つまずきはしないだろう、

まだ明るいうちに道を行くのなら。

(29)

しかし、もしも夜になって歩くことになれば、

その夜陰にまぎれて、人間は直ぐにあやまちを犯す――

姿がはつきりと目に見えないからだ。

そんな暗闇だと足にけがをするにきまつている。

しかし、それにもかかわらず、この件に関して言えば、

つまり、ユダヤ人の所へ行く理由は、

急いで寢床から起こすためだ、

230

225

眠っている、わたしたちすべての友だちのラザロを。

(30)

使徒一同 ラザロは病氣から救われましょう――

もしも眠っているだけというのなら、いい兆候ですね。

イエス ラザロは死んで、墓に横たわっている。

眠っているのをあなたたちは間違えて、死んでいると考えている。

その時、皆もよく知っているとおおり、わたしはそこにいなかった。

今度のこのことがあなた方の信仰を強めるはずなので非常に喜んでいる。

それゆえ、あなたがたに事実を言っておこう――

わたしたちの友は死んで、土くれの下だ。

(31)

トマス それなら真っ直ぐにそこへ行くのがいいでしょう、

わたしたちの友ラザロが死んでいる所へ。

そして、一緒に死にましょう、

ラザロが横たわっているのと同じ場所で。

イエス トマス、あなたは死ぬことを恐ろしいと思っていない。

皆、急いで真っ直ぐにそこへ向かう道を取ろう。

わたしの神性の偉大な力によって

ラザロは眠りから目を覚ますはずだ。

(32)

使者（見舞い客四） こんにちは、マルタさんに、マグダラのマリアさん、

イエス様にあなたがたの言付けを伝えました。

弟さんの病状を話しました、

大きな痛みを抱えて病床にあると。

「うろたえてはいけない」とお命じになりました。

「気分の悪さの一切から逃れさせてあげよう」とおっしゃいました。

寸時のうちに、ここへいらっしゃるでしょう、

「急いで行く」とわたしにおっしゃいましたから。

(33)

マリア あの聖なる預言者の来るのが遅すぎました――

弟が埋められてもう三日もたちました。

大きな石が墓穴の入り口をふさいでおります、

弟が埋められたままで。

見舞い客四 神よ、ラザロが死んでしまったのですから、その魂を祝福してください。

それでも、いいですか、つらいと思わないでください。

こんなにも長いこと泣いているのは間違いです。

悲しみのなんの助けにもなりません。

(34)

マルタ この心から心配事をすべて追い出すために、

すべての悲しみと痛みを捨て去るために、

街に出かけてゆこうかしら、

もしかしたらイエス様に会えるから……。

見舞い客二 いつでも神があなたがたを榮えさせてくれますように！

あなたの妹さんとわたしは一緒に留まり、

一所懸命に慰め、

すべての悲しみを捨てさせるようにしましょう。

(35)

見舞い客三 さあ、マグダラのマリア、元氣を出してください。

左百三十二

そして、心でなく頭でものを考えてみてください——

どの創造物もこの世から去らねばなりません。

この世から出てゆかなくてもいい人間は一人もいません。

死は誰とも友になりません。

死はすべてのものを大地に投げ捨てるのです。

神がすべてのものの命を終わりにする時、

神が望むほど命を永らえることができるものはなにもないのです。

(36)

マリア 友だちの皆さん、力づけていただいてありがとうございます。

頭が割れるように痛みます――

だから、お願いです、ここにいる間だけ、

ほんのしばらく休ませてほしいのです。

見舞い客四 西も東も、なにもかも創られたあの主が

あなたに恵みをお与えになって、わずかでも休むことができますように！

神にとって、それが一番の喜びになるはずです――

この世を無から創られたのだから。「イエスが登場。」

(37)

マルタ ああ、慈しみ深い主よ、あの時、ここにいらしてくれたらよかったのに――

いまごろは、弟のラザロは生きていたでしょうに！

でも、お棺に横たえられて三日も経ってしまいました。

死んだ時に埋めたのです。

それにもかかわらず、疑いもなくわたしにはわかっています――

神に願ったものならなんでも

気高い神からいただくことになることを、

なにを頼んでも、叶えられることを。

(38)

イエス 弟のラザロを再び起き上がらせ、

もう一度、生きている人間にさせよう。

マルタ わたしにはよく分かっています、偉大な最後の審判で、

弟が起き上がることを、そして、わたしたちも同じように。

イエス わたしが甦えるのを目にするはずだ。

加えて、わたしは終わりのない命でもある。

わたしの中で死に、そして、生きる人間を

死から再び生へと向かわせよう。

(39)

わたしを厚く信じ、

わたしの説教に従って生きる人は誰でも

終わりのない命を必ずや得る。

永遠に生き、もはや死ぬことはない。

その肉体と魂は必ず復活する。

終わりのない喜びを得るために、このことを信じるのだ。

マルタ おお、キリストよ、あなたに希望を託します！

あなたは神の至福の御子です。

(40)

あなたの父は終わりのない命の神です。

あなた自身は命と慈愛の子です。

この世の惨めさを終わりにするために、

天から地上への道をとられました。

イエス わたしが天の力の偉大な慰めであることが

まもなくこの世すべての人間に明らかにされるであろう。

行って妹をここへ呼びなさい。

マグダラのマリアをわたしのところへよこしなさい。

(41)

マルタ お命じになったとおり、妹を呼びましょう。

急いで、二人とも御前にまいりましょう。

マリア 悲しいわ！ 口が胆汁のように苦い。

大きな悲しみがわたしの心臓を二つに裂いてしまった。

弟が視界から消えてしまったからには、

この悲しみを軽減するような楽しみがあるはずがない。

ああ、悲しい！ こんなに苦しむなら産まれてこなければよかった！

悲しみが太刀となってわたしの心臓を切裂く！

(42)

見舞い客一 すべてを創られた方の愛しい愛にかけて言う、

しばらくの間、泣くのをやめなさい。

忘れてしまいなさい、

あなたをこの悲しみに追い込んだものことなどすべてを。

見舞い客二 自分からわざわざ邪魔者になって、

気づかないうちに、命を縮めておいでだ。

神の愛にかけて言う、悲しむのはもうやめなさい、

良き分別をもって、気苦労はもうやめなさい。

(43)

左百三十三

マルタ 妹のマグダラのマリア、泣き部屋から出て来て！

わたしたちの先生がいらしたわ——わたしの言ってることは本当よ。  
あなたを呼んでくるようにと、この場所までわたしを来させたの。

お願いだから、急いで出て来てちょうだい。

マリア ああ、こんなに長いこと、先生はどこにいらしていたのかしら？

悲しいわ！ どうしてもっと早くここへ来てくれなかったのかしら？

急いでお姉さんの後ろから付いて行きます、

そこへ行くまで時間がかかると思うけど。

(44)

見舞い客三 友だちの皆さん、お願いですから聞いてください。

この女性の後について、道を急ぎましょう。

本当に心配なのです、

悲しさのあまり、自分の身を傷つけてしまうのではないかと。

見舞い客四 りっぱな弟さんが記憶に残っているんですね。

飲まず食わずで、眠りもしないで、

ついには弟さんの墓に真つ直ぐ入るつもりだ——

気違い女のように、狂ったように泣こうとしているんだ。

(45)

マリア ああ、支配しておられる主、愛しい先生！

あの時、わたしたちと一緒にいらっしやっていたら、

弟はいまここに生きていたのに！

死なないで、生きてここにいたのに！

死に抵抗してもかなわないのです。

悲しいわ！ わたしの心は不思議なくらい悲嘆に控えています、

弟がこの場にはいないことを考えますと。

あなたも心からあんなにも愛してくださった！

見舞い客一 弟さんの偉大な死で思い起こすのは、

わたしたちにとっても優しく、良くしてくれたことです。

このようなことを思い出すと、わたしたちの心臓はとまってしまふ。

弟さんを失ってしまったて、わたしたちの気持ちは傷ついてしまった。

見舞い客二 あんなにいい隣人はいなかった、

誰にたいしても本当に優しかった。

飲み物と食べ物をふるまうて、わたしたちを元気にしてくれた。

あの人が逝ってしまったからには、わたしたちにもう友はいない。

(46)

イエス あなたたちが泣いているのでわたしも我慢できなくなった――

良い友だちを亡くしたのでわたしも泣いている。

我慢できなくて、どうしても嘆いてしまう――

あなたたちと同じように、わたしも泣かせておくれ。

〔ココデ、いえずハ涙ヲコボス。〕

見舞い客三 ご覧ください、この預言者が泣いているさまを！

本当に不思議なくらい真剣にラザロを愛していたのだ。

そうでなかったら、あの人のためにこんなにも泣くはずはない、

愛しているからこそ、それだけよけいに泣いてしまうのだ。

(47)

見舞い客四 お前の話など藁一本の価値もない――なんの必要があつて泣くのだ？

日が見えないままで生まれた人には視力を与えなかった。

ならば、友だちに命を与えることはできなかったのではないか、

あのまったく同じ高い力の働きによつてさえも！

イエス どこに埋められているのかを直ぐに言いなさい。

墓へ真つ直ぐに通じている道にわたしを連れて行っておくれ。

左百三十四

380

375

370

マルタ 主よ、あなたのご意思に従って、直ぐにお連れしましょう、

弟が横たわっている洞窟のしかるべき場所にまで。

マリア 使いの者に言付けを持たせて送り出して、

半マイルも行かぬうちに、

弟は死にました。わたしたちは抱え上げて

この墓の中に運び、直ぐに埋めました。

イエス 神の力があなたたち一人一人を喜ばせることになるだろう――

ここを立ち去る前に、そのような光景を見ることになるのだ。

穴をふさいだ石に両手をしっかりと据えて、入口からどかしなさい。

その後で、友のラザロの姿をわたしに見せておくれ。

(48)

マルタ いまよりずっと前から悪臭をたてています。

死んで三日が経ったのは確かです。

いままでと同じように横たわったままにさせておきましょう――

怖いのです、死かばねの悪臭のせいで、わたしたちにも害が及ぶかもしれませぬ。

イエス すでに言っておいたように、

もしもあなたたちの信仰が厚ければ、自分の目で神の姿を見るはずだ。

わたしが勧めているように、石をどかしなさい。  
あなたたちは神の栄光を間もなく目にするだろう。

(49)

見舞い客一 お命じになったことを急いでやりましょう。

手を石に据えて、皆で手伝ってください。

お願いだ、皆さん、持ち上げるのを手伝ってください――

わたし独りでは持ち上げられません。

見舞い客二 確かに、これは重い石だ。

重いなんの、大変な重さだ。

見舞い客三 たとえ二倍の重さがあるうが、

四人でかかれば持ち上がるでしょう。

(50)

見舞い客四 さあ、石を洞窟口から取り除いたぞ。

痛ましい光景を見ることになるだろう――

この墓に横たわる死体をみるのだ。

布に包まれているから哀れを催されるぞ。

〔いえすハ天ニ目ヲ上ゲテ言ウ。〕

イエス お父さん、気高い力をお持ちのあなたに感謝します、

今日のこの日も、わたしの祈りを聞き届けてくれました。

それが昼夜のいつであっても、わたしの言うままに

いつも認めてくださることを良く承知しています。

(51)

しかし、回りに立つこの人たちのことですが、

もしも、あなたとわたしの力を信じられないのならば、

疑いをきれいに晴らすためには、

今日のこの日に、皆にわたしたちの力を目に物見せたらいかがでしょうか？

〔ココデ、いえずハ大声デ呼バワル。〕

ラザロよ、何にも捕らわれていない友のラザロ、

その深い穴から直ぐに出ておいで。

高い権威の偉大な力によって

地上でもう一度、生きていくのだ。

(52)

ラザロ 命じられたままに、真つ直ぐ起き上がります。

天も地獄も地も、あなたの命令なら従うはずです――

あなたは神であり人間であり、もつとも力ある主だからです。

あなたは生と死との両方の錠と鍵をお持ちです。

〔カクシテ、らざろハ手足ニ布ヲ巻カレタママデ墓ノ一角デ復活シタ。〕

イエス 兄弟たち、行ってラザロを解き放ちなさい、

左百三十五

縛られている所すべてをばらばらにしなさい。

430

あなたたちと一緒に歩かせて家に帰えそう。

神の力にかければ、このような奇跡ですら、なんの不思議もない。

(53)

ペテロ お命じになったように、ラザロのいましめを解きました。

これで、すべてのものはあなたの権威に膝を折らなくてはなりません。

この偉大な奇跡によって、わたしたちには、はっきりと分かりました、

435

あなたが実際に神そのものであり人間そのものでもあることが。

ヨハネ 誰の目にもあなたが神そのものであり人間でもあることが分かります、

かくも偉大で、かくも不思議なこの奇跡を目にして。

天の下にあるすべてのものはあなたに従わなくてはなりません。

たとえあらがっても、死はあなたに打ち勝つことはできません。

440

(54)

見舞い客一同 声を一つにして言います、わたしたちは皆、あなたが神であることが分

かりました。

わたしたちの救い主としてあなたをあげます。

われらの愛のすべては、いまやあなたの中で育っています。

おお、もっとも卓越し、支配しておられる主よ、

ここから立ち去った後でも、慈愛をもってわたしたちをお助けください！

死に向かってあらがってみてもなんの助けにもならない――

あなたの力にあらがうことなどできないからです。

わたしたちが死なないように、いつまでも命ある者とさせてください。

(55)

イエス 今こそ、わたしは誰の目にも明らかにした、

わたしの神性の偉大な栄光を。

わたしの受難にたいする準備をすっかり整えよう。

死ななくてはならない時は近づいた――

すべての人間の魂を贖うためだ。

いばらの冠はわたしの頭を刺し貫くだろう。

そして、カルヴァリの岡の上、

十字架の上で、わたしは殺されることになっている。

〔ここに「ラザロの甦り」が終わり、「主の受難(その一)」へ続く。〕